

第 33 回

近畿特別活動研究協議会「京都府大会」

平成 26・27・28 年度

京都府小学校教育研究会特別活動部研究協力校

平成 27・28 年度

長岡京市教育委員会研究指定校

【研究主題】

# 「望ましい集団活動を通して、 豊かな人間関係を築く特別活動」

—よりよい生活や人間関係を築くため、本音で話し合い、本気で実践する児童の育成—



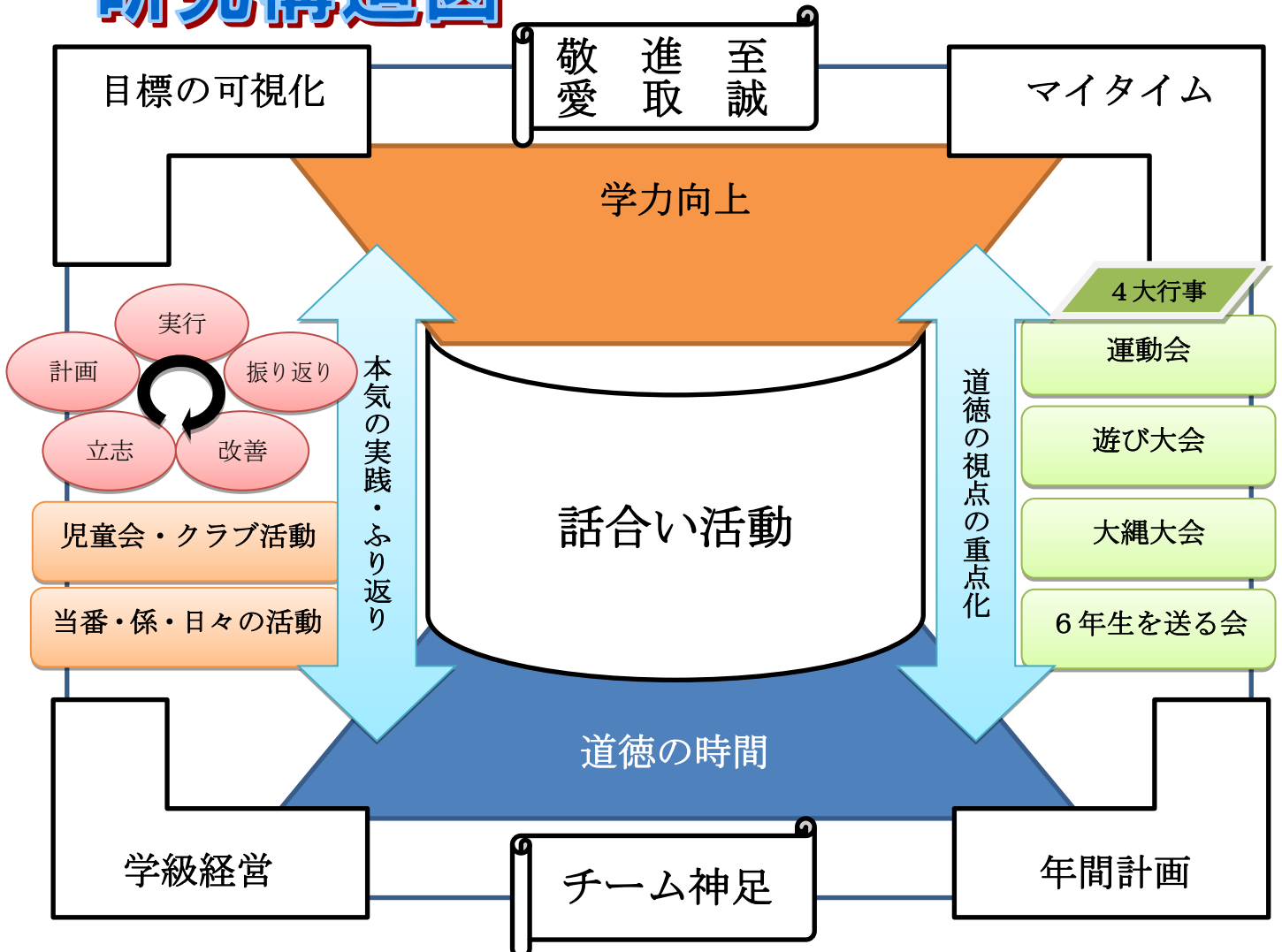
京都府長岡京市立神足小学校

# 研究の概要

本校は、平成 17 年度から 6 年間、道徳教育の研究を積み重ねてきました。週 1 時間、年間 35 時間の道徳の時間では、資料分析、中心発問の吟味、ねらいとする価値をより深めるための繰り返しなど、全教職員で道徳の時間の充実を図り、児童の内面的資質を高め、道徳的実践力を培ってきました。その力をさらに確かなものにするために、特別活動という実践の場で児童の自主的、実践的な態度を意欲的に発揮できるようにしたいと考えました。

そこで、平成 23・24 年度の 2 年間、国立教育政策研究所の特別活動の研究指定を受け、これまでの道徳教育、道徳の時間の指導基盤を引き継ぎ実践するとともに、各学級における話し合い活動に焦点を当て、その活性化に向けて取り組んできました。また、平成 25 年度から長岡京市教育委員会研究指定校、平成 26 年度から京都府小学校教育研究会特別活動部研究協力校として、特別活動の更なる研究を進めてきました。児童が話し合い活動の基本的な流れを理解することに加え、意欲的に参画し、一人一人が抱く思いや願いを本音で話し合うことを通して、自己決定や集団決定を行ってきました。さらに、その実現に向けての活動の目標を設定し、計画を立てて協力して実践し、振り返るというサイクルを繰り返し積み重ねること（思いやりのスパイラル）で何事にも本気で取り組み、自分や他者のことを大切に、よりよい生活や人間関係を築くことができる児童の育成につながるのではないかと考え取り組みました。

# 研究構造図



# 研究仮説

## 仮説1

「話し合い活動」を計画的に実践することで、児童が自らの動機や集団の願いを叶えられることを実感し、よりよい自己や集団、望ましい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育成することができる。

“サンタ（3た）”の話し合いを柱に

- ①「たのしいこと」を目一杯する……〇〇会をしよう
- ②「ためになること」も少しずつ……他の人（たち）に喜んでもらおう
- ③「たかめ合うこと」も取り入れて……よりよい学級、学校にするために

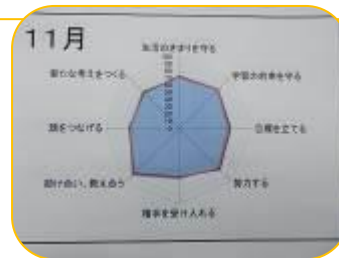


## 仮説2

学級目標について振り返り、可視化することで、学級の現状を客観的に理解し、課題意識や目的意識を児童も教師も共有することで、よりよい学級や学校を目指すために本気で実践する態度を育てることができる。

“学級力”の活用と“可視化”

- ①毎月、もしくは節目ごとに、学級の現状を振り返る
- ②振り返りを可視化することで、所属意識を高める



## 仮説3

集会活動や異学年による班活動など、異年齢集団による交流を継続的に行うことで、児童が互いに理解して繋がり合い、学校全体で「支持的風土※」を創り上げることができる。

※相手の立場になって考え、相手のよさを見つけようと努める力。

お互いに協力し合い、自分の力を全体のために役立てようとする力。

“立志のサイクル”と“こうたり集会”

- ①児童の願いを膨らませる“立志”
- ②全校児童集会「こうたり集会」  
「児童の、児童による、児童のための集会」を行う。
- ③四大行事と道徳の時間の関連を重点化し、年間計画に位置付けて検証する。



①道徳の時間を基盤に

②話し合い活動を柱に

③道徳との関連を重点化

# 学力向上とその充実に向けた様々な取組へ

# 仮説 1～話し合い活動の計画的実践とポイント～ マイタイムの効果的な活用

毎日 15 分間（1：45～2：00）のマイタイムを活用することで、話し合い活動を柱に、学級目標を達成するための創意工夫、活用できる時間を設定しています。

今年度で 4 年目を迎え、主な活用内容は以下に示した通りです。

- ①振り返り（日常、当番・係活動、行事など）
- ②ミニ話し合い活動の時間（出し合う、比べ合う、決める）
- ③話し合い活動後の実践の場
- ④計画委員会の事前指導
- ⑤係活動の実践
- ⑥決定しなければならないこと（高学年）  
指導しなければならないこと（低学年）



## 話し合い活動の積み上げ

### 《 授業研究 》

- 4 月：オリエンテーション授業【3年】
- 6 月：重点研究授業【6年】
- 11 月：重点研究授業【2年】 ひまわり学級研究授業
- 6 月～12 月：自主研究授業（低・中・高学年ブロック）全学級公開
- 2 月：研究発表大会
- 3 月：実践のまとめ



### 《 学級会ノート 》

低・中・高学年の発達段階を考えたノートを作成

低学年

<b>がっせうかい月</b>		月 年 日 ( ) 期 2 次 目
日 時 場所 出席者 (欠席者) (欠席者)	ハロウィンパーティしよう どのグループ (どのグループ)	話し合いの目的 (話し合いの目的)
(話し合い)	(話し合い)	(話し合い)
(話し合い)	(話し合い)	(話し合い)

高学年

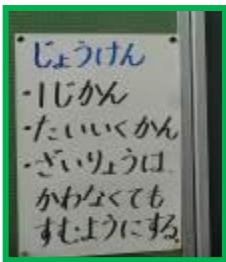
話し合いの目的		話し合いの目的
話し合いの目的	話し合いの目的	話し合いの目的
話し合いの目的	話し合いの目的	話し合いの目的
話し合いの目的	話し合いの目的	話し合いの目的

## 《話し合いグッズ》

- ①短冊 (黄：意見 白：理由 青：折り合い案)
- ②磁石 (青：賛成 赤：心配)
- ③「出し合う」「比べる」「決める」段階 ⇒ 段階と時間を意識し、話し合いへの参画意欲を高める



## 《議題化の重要性と条件整備の必要性》



児童に任せ切ることができる内容かが最重要です。児童が話し合って決めた内容を教師が覆すことにならないよう、どのような決定になっても委ねられる内容であることを、第一に考えます。

そのために条件整備を曖昧にせず、事前に児童に提示します。学校のきまりや日時、準備物で金銭に関わることなど、教師が予め決定しておく必要があります。

## 《提案理由は収束への道標》

- ①動機…どうして話し合いたいのか。
- ②願い…話し合いを通して、学級みんながどのようになりたいのか。

本校では、「①動機」と「②願い」を提案理由に盛り込むようにしています。話し合いの中で、児童がたくさんの意見に困ったり、迷ったり、対立したり話の焦点が逸れたりした時など、この提案理由に立ち戻ることで、決定に向かうことにつながると考えているからです。

また、児童は提案理由に立ち返ることで意見に価値付けし、「わたし」から「わたしたち」へと視点を広げることにもつながることが明らかになってきました。

## 《評価：話し合いの見取り & 道徳的視点》

話し合い活動の最後に、教師が2つの面から評価します。話し合いの中で、どのような発言傾向があるのか事前に把握し、評価につなげられるようにしています。また、技能面に加え、相手の思いを汲むことや言いたいことを慮るなど、児童の道徳的な言動を評価することも大切にしています。両面から評価を積み上げることが、よりよい話し合い活動につながり、集団決定へと向かうことを手応えとして感じています。



### 「教師の助言」の内容とタイミング

- 低学年…折り返し方をアドバイス
- 高学年…学級全体への助言を減らし、計画委員にのみに助言。
- 方向性が大きくずれた時に交通整理を行う。
- 教師自身も発言者の一人として意見を述べる。

### めやすの時間の決め方

- 低学年…出し合うに時間をかけ(15分程度)、じっくり考えさせる。
- 中・高学年…「比べる」「決める」に多くの時間をかけ、「出し合う」時間は極力短くする。(0分とすると時間短縮になり有効。)
- 事前に計画委員で意見の分類・整理をしておくことで、時間を予測する。

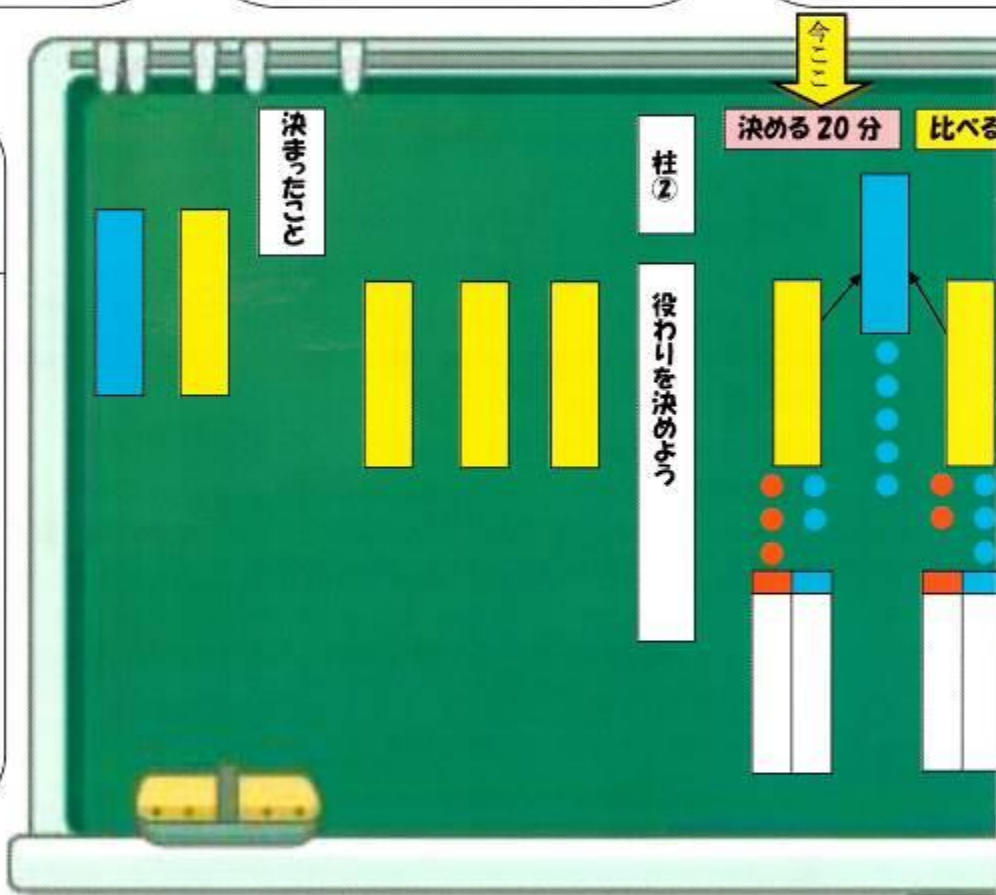
### 「柱」の設

- 基本的に、柱を2
- 2つのうち、どちらか(じっくり話し合いは)
- 「何を」「どのような」の柱を立てる。
- 時間内に収束で
- できるだけ内容をシンプルなものに

### 「先生からの話」の

#### ポイント

- 話し合いの技術的側面と道徳的側面の両方の視点に立って、評価を積み重ねる。
- 「話し合いの見取り」を参考にしても良い。
- 児童の発言の中で良かったものを例に出す。
- 提案理由やめあての達成度について評価する。
- 教師もクラスの一人として、児童と同じ目線で話をする。



### 「学級会ノート」の活用

- 事前に意見を記入し、話し合いに主体的に参加させる。
- 計画委員が事前に意見の確認をしたり、集約をしたりする。
- 話し合いのふり返りを記入し、決まったことから自己決定を促す。
- 4月から継続的に使用する。

### 思考の可視化・操作化・構造

- 黄色の短冊に「意見」、白色の短冊に「理由」を書き、操作しながら
- 青ライン入りの白色の短冊には賛成理由を、赤ライン入りの白色
- 賛成の理由は短冊の上に青の磁石を、心配の理由は短冊の上に
- 意見と意見を合わせた新たな意見が出た場合は、青の短冊に書
- 「出し合う」「比べる」「決める」の話し合いの流れと目安の時間がわ
- 不採用になった意見は、下に下げて「ありがとう」と書く。決定し
- 黄色の短冊1つにつき、白の短冊は2~3枚とする。より良い理

### 設定方法

つ立てる。  
らか1つに重み付け  
しいもの)をする。  
に「だれが」について  
きるものを設定する。  
を絞り込み、具体的に  
する。

### 「話し合いのめあて」の設定方法

- 低学年は…教師で設定。
- 中・高学年…計画委員が前回の反省や学級の課題を踏まえて設定。
- 話し合いの技術的な面についての目標を設定する。  
(例)・話す聞く力に関するもの  
・態度目標や参画意識が持てるもの

### 「議題」の選び方

- 本時だけでなく、事前から事後までの一連の流れを「議題」と捉える。
- 児童みんなが望み、必要であるもの、行事や時期などを考慮し、タイムリーなものを選定する。
- 低学年のうち、教師から提示する場合もある。
- 児童に任せられるものかの判断が必要である。

10分 出し合う5分

柱①  
何をするか決めよう。

めあて  
・友達のことを知れるような交流を考えよう。  
・できるだけたくさんの方の意見を生かそう。

ていあん理由  
① まだ話したことがない友達がいるので、みんなで楽しく遊びたいから。  
② これまで以上に友達のことを知って、もっと仲良くなりたいから。

議題  
お楽しみ会を開こう

条件  
・七月十日  
・二時間  
・教室  
・お金がかからない。

第五回 スマイル会

あじない

### 学級会のネーミング

- 児童の願いが入ったものに決定する。
- 決めることにより、自分たちの時間という意識が芽生える。

### 「条件」の整備

- 任せきるため、決定するために教師が行う準備。(安全・金銭・学校の約束に関すること等。)
- 自分たちが割り上げる意識を高める工夫の一つである。
- 児童が何をしたいのかを把握してから決定しても良い。

### カードの工夫

ら、分類・整理して比べやすくする。  
の短冊は心配理由を書く。  
赤磁石を付ける。  
く。→や+などをチョークで書き足す。  
かるように提示する。  
ものは上げる。  
由や重要な理由だけを残すようにする。

### 「提案理由」に記載すること

- 「動機」「願い」を提案理由に盛り込む。  
① 動機⇒どうして話し合いをしたいのか  
② 願い⇒話し合うことでどうなりたいのか
- キーワード化し、収束への手立てとする。キーワードには、赤線を引いておく。
- 学級目標の実現のための会であること、話し合って実践した先のことも考えながら言葉に表現する。

# 仮説2～学級力の活用と学級目標の可視化で本気の実践～

## 《学年・学級・個人目標の設定》

### I) 学校教育目標

至誠：誠実で真面目な子  
進取：自ら進んで学ぶ子  
敬愛：思いやる子

### II) 学年目標の設定

- ① 3本柱とする。
- ② 道徳的視点1・2・4  
(自分自身・他者・集団)を取り入れる。
- ③ 教師が設定し、学年開きなどで児童に提示する。

### III) 学級目標の設定

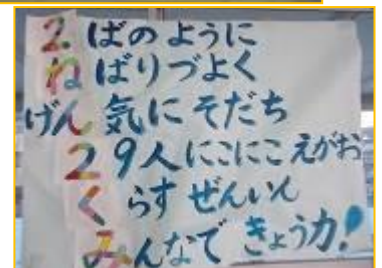
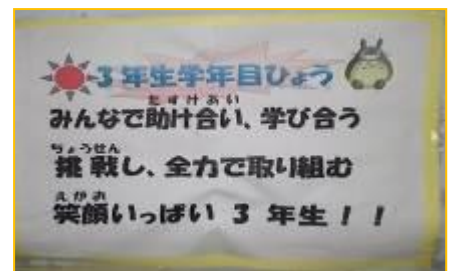
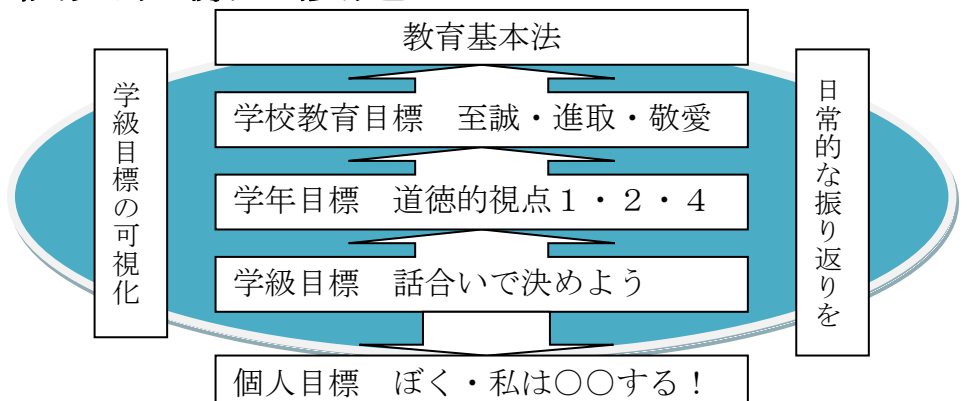
- ① 学校・学年目標をもとに、3本柱とする。
- ② 学級活動(1)において、話し合い活動をもとに決める。
- ③ 児童、教師、保護者の思いや願いなども取り入れる。

### IV) 個人目標の設定

- ① 学級目標に向かって、具体的に「ぼく・わたしは〇〇をする」と表現。

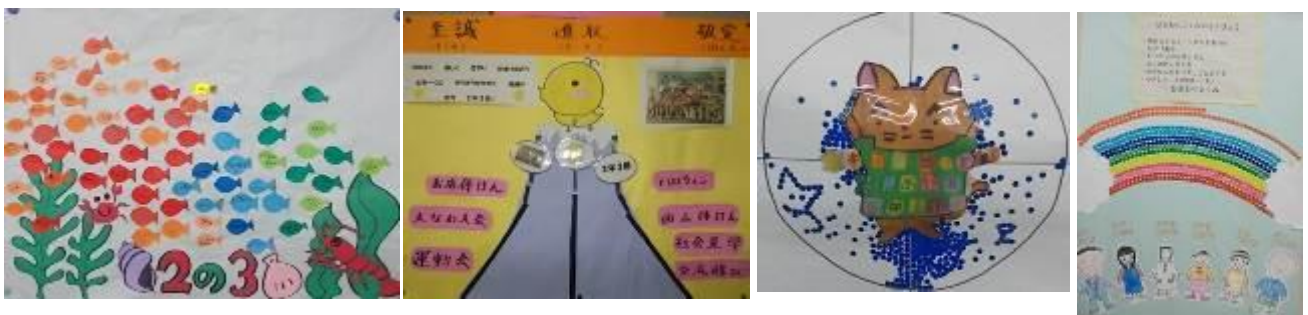
### V) 振り返りの充実を

- ① 日常の生活の中で、行事の事前・事後など、各目標を意識した振り返りをする。
- ② 児童をほめるときにも活用する。



## 《学級目標の可視化》

各行事や日常の学級の取組など定期的に振り返り、学級の児童全員が目で見えてわかるようにしました。学級全体で達成度を確認し、所属感を高め、よりよい学年・学級集団として高め合うことになりました。

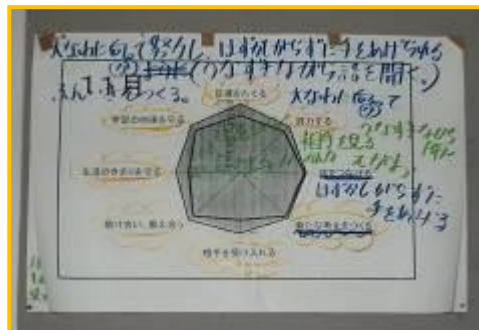
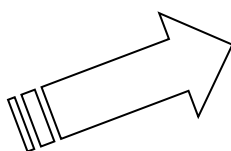


増加型、折れ線グラフ型、上下・増減型、パズル型など、様々な型で可視化しています。(学年で掲示する場合も)



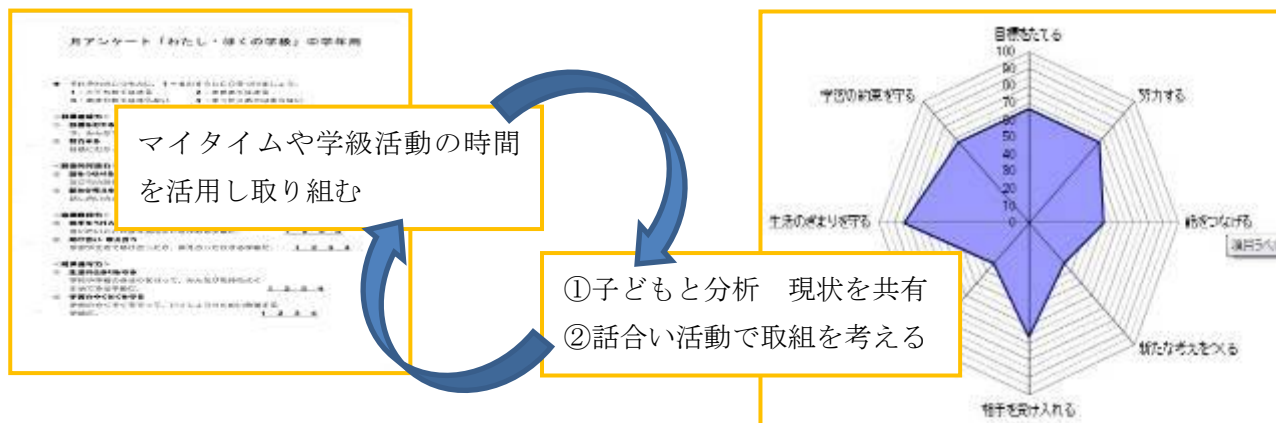
## 《学級力の活用》

新潟大学教育学部附属新潟小学校において実践されている“学級力”を今年度も取り入れています。これまで行っていた学級目標の可視化をさらに客観的に捉え、課題意識と目的意識を児童と教師が相互に共有することができると考えました。また、レーダーチャートをもとに、学級の強みや課題を共通確認し、「たかめ合う」話し合い活動やその後の実践につなぐたり、教師間で交流したりすることもできました。



## 《活用のための共通理解》

○話し合い活動を柱にした PDCA サイクル、学級目標の可視化、マイタイムの活用など、これまでの研究の積み重ねと関連する部分が多く、今後の発展性も期待できます。



## 《活用のねらい》

- I) 学級力アンケートを元に客観的に学級を見つめなおし、自分たちの想いや願いをみんなで叶えます。
- II) チャート向上が目的ではなく、学級の実態把握、学級経営の具体的な観点として役立てます。
- III) 実施時期の弾力化（定期的・各種取組の前後）により、学級の実態や教師の個性が発揮できるようにします。

	4月	5月	6月	7月
定期的	◆	→共有→取組→◆	→共有→取組→◆	.....◆
取組前後		・◆→共有→取組	→◆.....◆→	共有→取組→◆

## 《アンケート項目の「自校化」》

学校目標

至誠（まじめな子）.....【約束、きまり】  
 進取（進んで学ぶ子）.....【目標、努力】 【つなげる、新たな考え】  
 敬愛（思いやる子）.....【助け合い、受け入れる】

に加え、

話し合い活動（教科、道徳、総学時）.....【つなげる、新たな考え】をアンケート項目に入れていきます。

# 仮説3～異年齢集団による支持的風土を文化に～

## “立志”が活動の原動力

児童会・クラブ活動を行う上で大切にしてきたことは、『立志＝志を高く持つこと』です。児童が何をしたいのか、各学級で積み上げてきた話合いでの願いの実現と同様に、活動や設立において『立志』を重要視してきました。

この一連のサイクルを経験することで、「次はこれをしようと思います。そのために…」と自ら考えて、行動する姿が見られるようになりました。

また、その過程において、「あこがれの高学年」の姿を追い求め、教師の適切な支援のもと、神足小学校の校風や伝統を築くことにつながっています。



## 「こうたり集会」で心をひとつに

神足小では、全校朝会と集会活動を区別して行っています。「こうたり集会」のネーミングは全校児童から募集し決定しました。集会活動では、集会委員会が中心となり全校ゲームなどの準備・進行をしています。異学年交流や各学年の発表、暗唱や合唱など児童で創り上げる時間となっています。



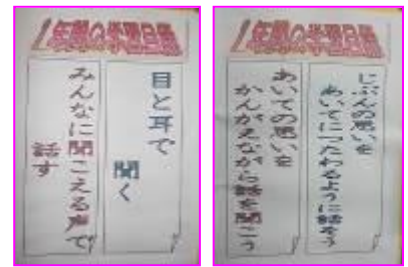
## ファミリー清掃で更なる校風創りへ

1年生から6年生が一つのグループ（ファミリー）となり掃除を行う「ファミリー清掃」では、上の学年の下の学年に優しく接する場面や、グループをまとめる頼もしい姿が多く見られます。この高学年の姿を下の学年が引き継ぎ、神足小の校風はさらにより良く創りあげられていきます。



# 年間目標の設定

「話す・聞く」の目標を設定し、各教科、道德の時間をはじめ、話し合い活動において常に意識して取り組むことができるようにしています。



# 学習貯金で自ら学ぶ

「自ら進んで学ぶ子」の育成の一つとして、学期末には自分で学習課題を設定して取り組む“学習貯金”を行っています。日常の宿題に加え、児童が自ら考えて意欲的に取り組んでいます。

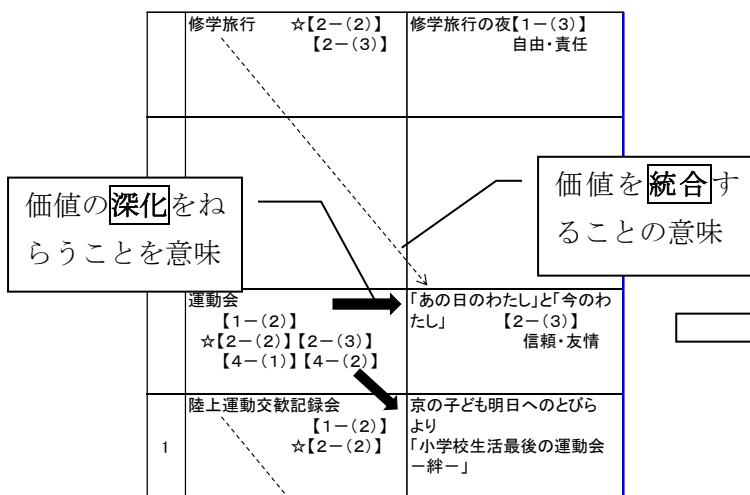


# 国語科での”話し合い”による学びを設定

話し合い活動で培った力を教科（主に国語科）学習においても生かすことができるように、意図的に単元を設定して取り組んでいます。学習形態やその時の児童の様子、改善点などを振り返り、その設定をまとめることで、以後の学習につなげたり、次年度の取組に生かされるようにしたりしています。

# ～道徳の時間を積み重ね、関連を重点化～

週1時間の道徳の時間の積み重ねを大切にするとともに、4大行事（運動会、遊び大会、大縄大会、6年生を送る会）において、道徳との関連を重点化しています。そのことで、児童が価値を自覚できる場面を意図的に仕組み、教師の声かけや児童の姿の見取りなどを事前に共通理解を図ります。行事前、行事後、感じた価値について「補充・深化・統合」する道徳の時間を設定し、年間計画を作成しました。



## 運動会と道徳の時間の関連についての検証

ねらい 関連表で示した特別活動と道徳の時間とが効果的に関連しているかを検証する

学年	6年2組
資料名	小学校最後の運動会～絆～ 京の子ども 明日へのとびら
時期	運動会後
道徳の時間での活用方法	道徳の時間の終末に、運動会における児童の写真を提示
児童の反応・感想	<p>【中心発問から出た意見】</p> <p>⇒「絆の花」とは、どんな花だろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなの心が一つになって咲く花</li> <li>・一人ひとりの努力が重なって、協力し合ったりすることで咲くと思う。</li> <li>・皆が、一人ひとりのことを思うこと。</li> <li>・みんなが力を合わせ、心をひとつにしたこと。心をひとつにして、お互いの気持が通じ合い、努力した結果。</li> <li>・一人がみんなを思って、みんなが一人を思っているときに咲く。</li> <li>・みんなで信頼しあって、一丸団結した時に、みんなの心の中に咲く。</li> </ul> <p>【振り返り】</p> <p>①価値について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や仲間が満足して、笑顔になれば、成し遂げたほうがいいけれど、成し遂げられなくても絆の花は咲くと思う。</li> <li>・達成したり、できなかったら絆の花が咲かないわけではなく、みんなが助け合い、少しでも成功に近づいたり、できない人を教え、少しでも多くの人ができるようになるために頑張ればいい。</li> <li>・成功できなくても、仲間のことを信じて合ったら、絆の花は咲くと思う。</li> </ul> <p>②自分自身とのつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このお話の主人公はつらいところなどがあった。</li> </ul> <p>③運動会との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回、赤組は優勝できずに三位だったけど、私は絆の花は咲いたと思う。「また今年優勝しよう」と言って、また努力すれば絆の花は咲くのではないかと思います。</li> </ul>

例えば、行事等の振り返りの際に、道徳の時間で学習したことを関連付けて振り返ることができるようにしています。今後も、4大行事と道徳の時間の関連を図り、道徳の時間で考えた「自己の生き方」を特別活動で深められるように、有機的に関連させていきたいと考えています。

# 思いやりのスパイラル

話し合い活動を柱として道徳的实践を積み上げると共に、道徳の時間で道徳的实践力を積み重ねていく「思いやりのスパイラル」で道徳的实践力をより確かに育み、人と人との関わりを通して、立場やちがいを理解し、自己の生き方を見つめられるようにしました。そのことで豊かな道徳性を育むことが、望ましい人間関係を築くことにつながると考えています。

